

特別講演 2

「大血管障害抑制を目指した 2 型糖尿病治療」

順天堂大学大学院 代謝内分泌内科学 准教授

三田 智也 先生

インスリン分泌が低下した日本人 2 型糖尿病患者の治療薬として DPP-4 阻害薬が広く汎用されている。2 型糖尿病は、心血管イベント発症のハイリスク群であるが、DPP-4 阻害薬を使用した治療は、糖尿病の病態改善を通じて動脈硬化にも抑制的に働く可能性がある。

私たちは、頸動脈内膜中膜複合体肥厚度を指標として、アログリプチンやシタグリプチンの動脈硬化に対する影響を検討した(SPEAD-A:Study of Preventive Effects of Alogliptin on Diabetic Atherosclerosis、SPIKE:Sitagliptin Preventive study of Intima media thickness> Evaluation)。

その結果から、心血管イベントの既往がない、早期の段階から DPP-4 阻害薬を投与することで 2 型糖尿病患者の動脈硬化の進展を抑制できる可能性があると考えられる。

DPP-4 阻害薬の併用薬としては、薬物治療に伴う低血糖あるいは体重増加リスクを考慮するとメトホルミンがよい選択肢と考えられる。

本講演では、DPP-4 阻害薬や DPP-4 阻害薬とメトホルミンの配合剤であるイニシンク配合剤の有用性について述べる。